

■ 効果の見える治水事業

□高知県 萩谷川床上浸水対策特別緊急事業

高知県中央西土木事務所長 小松 幹



萩谷川は、高知県中央部の土佐市宇佐地区を流れる二級河川です。その源は、一般に波介山展望公園と呼ばれる土佐市高岡地区と宇佐地区を隔てる標高 300mほどの山域であり、その東端の大峠展望所(標高 270m)から四国のみち(へんろ道)で知られる塚地峠(標高 202m)付近が分水嶺となっています。また、その幹川流路延長は 2.6km、流域面積は 2.43k m²となっています。

流域の状況は、上流部は前述の山地からなり、中下流域は、右岸側は主に水田、ビニールハウスの平地となり、左岸側は浜堤裏に発達した市街地が接しており、細長い住宅密集地が続いています。

途中、河口から 1.4km 付近(市街地手前)で浜堤にさえぎられ、市街地背後を海岸線に平行するかたちで流下し、宇佐町福浜で浦ノ内湾に注いでいます。

このような、浜堤に遮られた地形的特徴から、過去、台風などの集中豪雨や高潮により、河川の流下能力不足と相まって、浸水被害を受けてきました。

このため昭和 45 年の台風 10 号に伴う高潮と氾濫浸水被害を契機に、高潮対策事業並びに河川等災害関連事業により、河口防潮水門の設置および下流部の河道改修が行われました。

しかし、浸水被害はその後も繰り返し、平成 10 年 9 月 '98 高知豪雨' では浸水家屋 441 戸、平成 13 年 5 月集中豪雨では浸水家屋 22 戸の被害を受けています。

こうした度重なる浸水被害に対する抜本対策として、平成 16 年度より「床上浸水対策特別緊急事業」の採択を受け、5 箇年計画で萩谷川本川の未改修区間 1,487m と派川新町川(放水路)310m を併せた 1,797m 区間の河道拡幅及び河床掘削を行い、不足している河積の確保を重点的に実施しています。

この事業の完成により、流下能力は最大で約 3 倍に改善され、平成 10 年 9 月豪雨での床上浸水被害(151 戸)が今後は解消されることから、地元住民からは一日も早い完成が待ち望まれています。

また、防災面での事業効果として、過去の南海地震において甚大な津波被害を繰り返してきた歴史をもつ宇佐地区にとって、住宅密集地の新町川沿いの管理道は、来るべき東南海南海地震津波時には背後の山への避難路として重要な役割を果たすものと期待されます。



平成 10 年 9 月豪雨の浸水状況



整備が進む新町川工区



□ 宇佐地区の河川整備と防災対策

土佐市長 板原 啓文



<流域の概要>

土佐市は、高知県のほぼ中央部に位置し、四国三大河川の一つ、仁淀川河口に広がるまちで、東は仁淀川を隔てて高知市と、西は虚空蔵山(こくぞうさん)を境にして須崎市と、北は不入(いらず)山脈によつていの町、日高村、佐川町と、そして南は黒潮洗う太平洋と接しています。市域は東西 16 キロ、南北 12 キロで、面積は 91.59 平方キロメートルで、地形は、平野、山、川、海と、起伏と変化に富んでいますが、殊にリアス式海岸の横浪半島、横浪三里の景観は美しく、また、ジョン万次郎出漁の地で知られる宇佐地区は県内屈指のマリンスポーツ基地として近年は、しおかぜ公園も整備され、休日には、モーターボートや水上バイクを楽しむ人々の姿も見られます。また、ホエールウォッチングや潮干狩りも有名であり、県民の身近なレクリエーションの場として親しまれています。

さらに温暖な気候と豊かな自然の恩恵を受け、地味肥沃な平野部での多角的近代農業のほか、仁淀川の豊かな水を活用しての製紙工業や、沿岸漁業、水産物加工など、多彩な産業が成り立っています。特に土佐市宇佐地区は、古くからカツオの一本釣り、マグロ延縄(はえなわ)漁業等の拠点として発達し、漁港背後にはカツオ節加工場が多く立地しております。土佐市西部、戸波(へわ)地区は土佐文旦発祥地であり、山の斜面を利用しての文旦作りが盛んです。近年ではハウス栽培もとり入れ県外への出荷量が増えてきました。



宇佐みなとまつり名物「水中花火」

<治水事業の概要>

宇佐地区の中央部を流れる萩谷川流域における年平均降雨量は約 2,600 mm と日本の平均降雨量の約 1,700 mm と比べて多く、さらに下流低平地部の河川勾配が緩いことから、過去には台風などの集中豪雨と高潮により頻りに浸水被害を受けており、特に、昭和 45 年 8 月の台風 10 号災害を受け、昭和 45 年から 51 年にかけて、河口防潮水門の設置や河道改修が行われました。しかし、この河道改修は下流部のみであったため、近年では平成 10 年 9 月の豪雨('98 高知豪雨)や、平成 13 年 5 月の豪雨と、度々床上浸水被害が発生しました。

こういった、近年の水害を契機に、中上流部の狭い河川断面を拡幅することで、特に洪水被害の軽減・河川環境の保全を目的として、平成 16 年度から、国土交通省の深いご理解を賜り、高知県で「萩谷川床上浸水対策特別緊急事業」による念願の河川整備が急ピッチで進んでおります。またこの事業と併せて、想定される南海地震時の津波による避難路として



自主防災組織による避難訓練

の活用が期待される漁業集落環境整備事業の漁業集落道等と一連で整備を行い災害に強い街づくりができると考えています。

今後は、市として、地域防災計画の充実や浸水履歴図の有効活用・地域の自主防災組織育成といったソフト対策を進め、流域全体のさらなる治水安全度の向上をはじめとして、近々に来るであろうとされている南海地震への様々な防災体制の確立を進めていきたいと考えています。さらに生活様式の変革・高齢化の進む当地区の社会情勢に応じた防災意識の高揚を図り、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指していこうと考えています。

つきましては、国土交通省・高知県をはじめ関係機関の皆様方の、さらなるご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。